

# 発達障害と二次障害

学校教育の役割  
発達障害特性への支援

# 1. 特別な支援を必要とする 子どもたち

発達障害、  
二次的な問題・二次障害

# 子どもが抱える困難

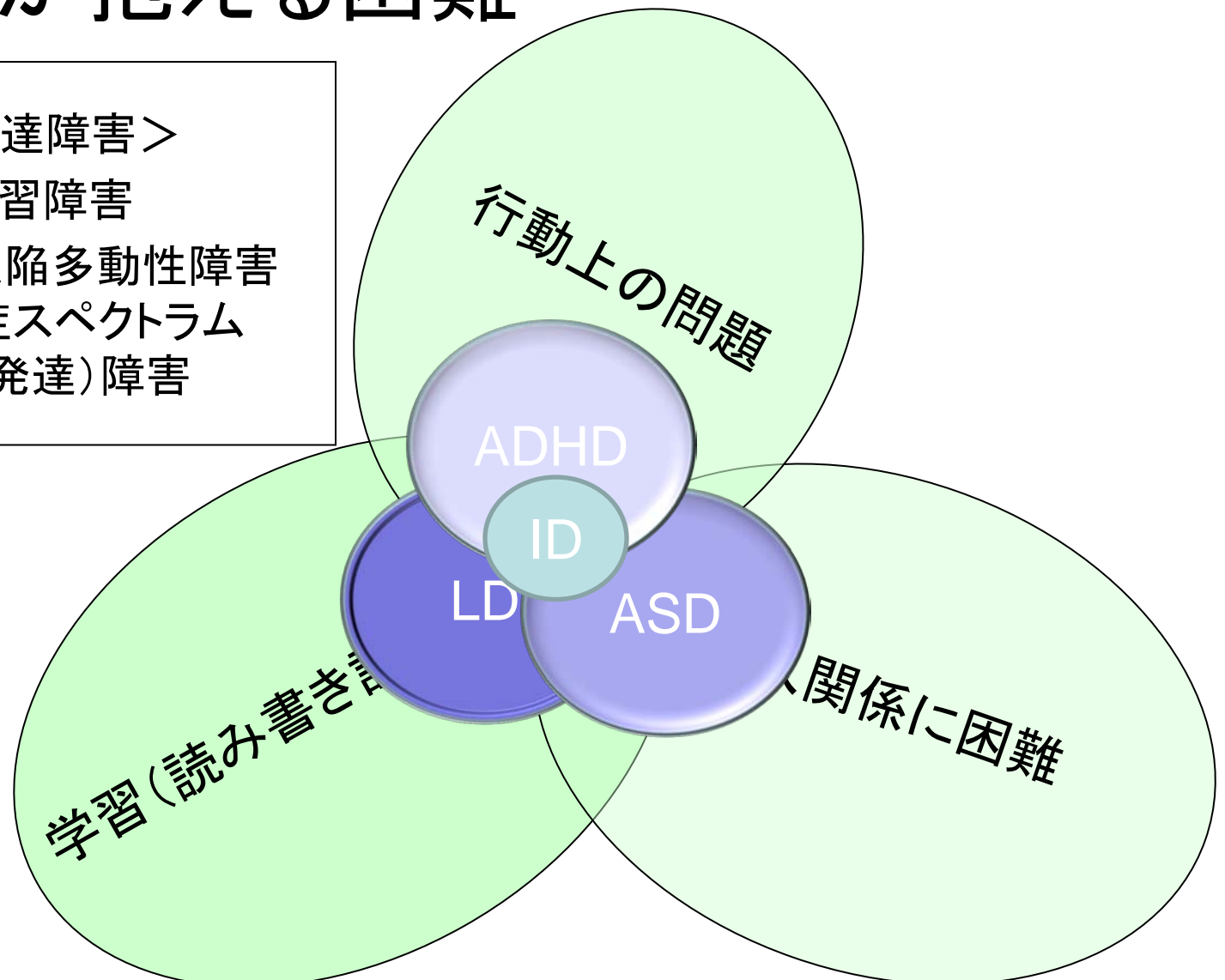
<主な発達障害>

LD: 学習障害

ADHD: 注意欠陥多動性障害

ASD: 自閉症スペクトラム

ID: 知的(発達)障害



「発達障害」でなくても、困難さを抱える子どもが存在する

# 主な発達障害

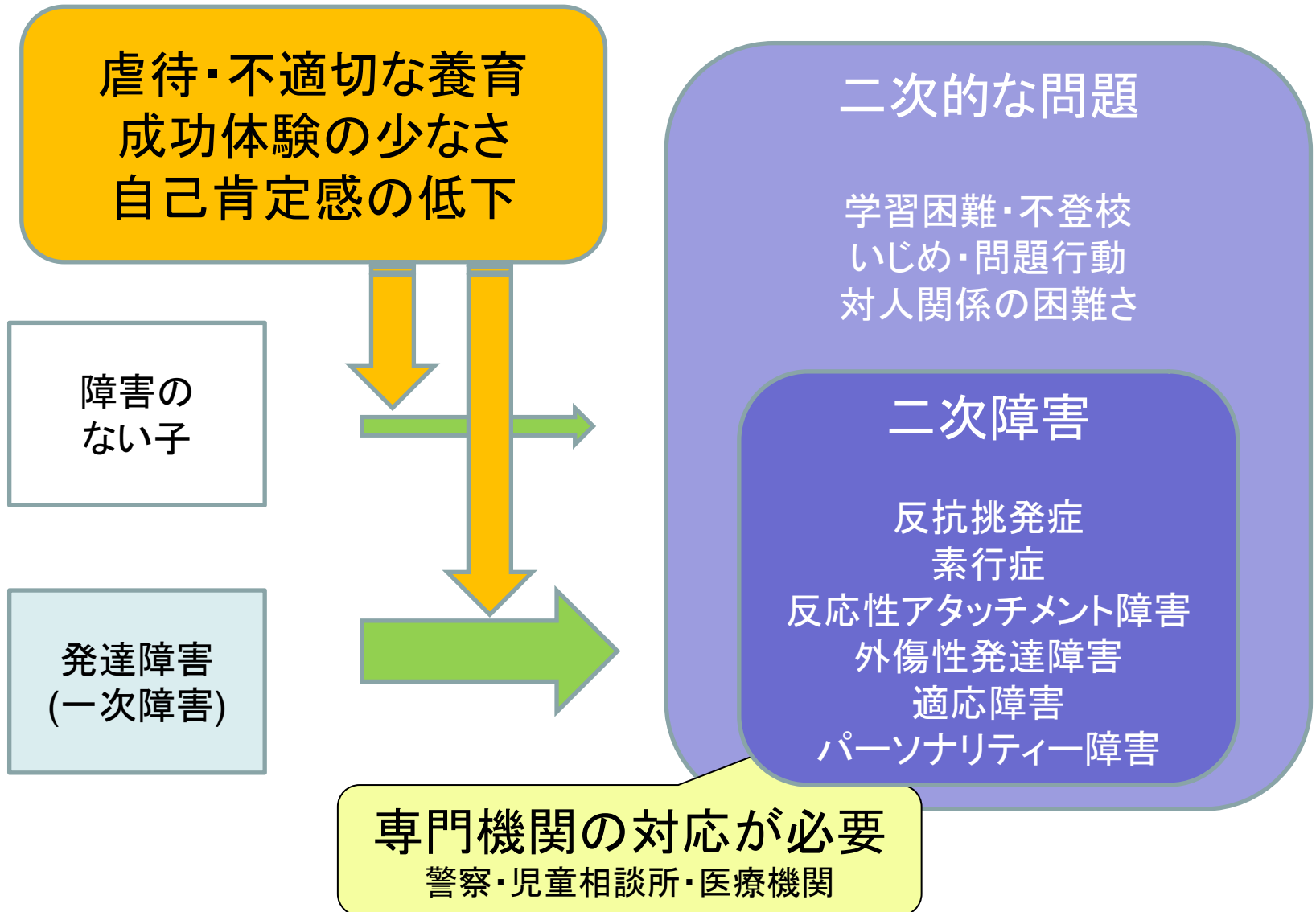
- 学習障害(LD)
  - 知的な遅れは見られないが、読み書き計算に困難さを示す
- 注意欠陥多動性障害(ADHD)
  - 不注意、多動、衝動性を示す、行動抑制の障害
- 自閉症スペクトラム(ASD)
  - 対人関係など社会性の困難さと、こだわりなどの同一性保持を示す
- 知的障害(ID)
  - 知的発達の全体的な遅れ、適応行動の遅れ

# 主な発達障害(続き)

- コミュニケーション障害(CD)
  - 言語障害:ことばのゆがみなど
  - 社会的コミュニケーション障害:対人関係の困難さ(こだわりなし)
- 運動障害(MD)
  - 発達性協調運動障害:極端な不器用さ
  - チック障害:突発的な動き、音声

発達障害は病気ではなく特性ととらえる  
必要なことは、教育や支援、そして一部治療

# 発達障害と二次障害・二次的な問題



虐待・不適切な養育

親の精神的な問題

困難さ・状態

学習困難・対人関係の問題・  
生徒指導上の問題

神経発達の診察が必要とされる早期徴候症候群

症状(下位群)

LD, ADHD, ASD

貧困

二次的な  
問題

二次障害

Niigata Univ.-Nagasawa Labo.

学校で対応が可能

学校で対応が困難

# ちよつとまとめ

- 発達障害そのものが問題ではない
  - 特性に対応し、適切な支援で健全な成長
- 特性+後天的要因により二次障害へ
  - 虐待、親のうつ、いじめ、貧困、災害など
  - 自己肯定感の低下・未熟さ、依存性
  - 不安・緊張・抑鬱・怒り・被害感など
- 二次障害は専門機関中心に対応
  - 学校は予防的対応



## 2. 二次的な問題への対応

全員を対象とした共通する対応(予防的対応)  
段階的な個別介入

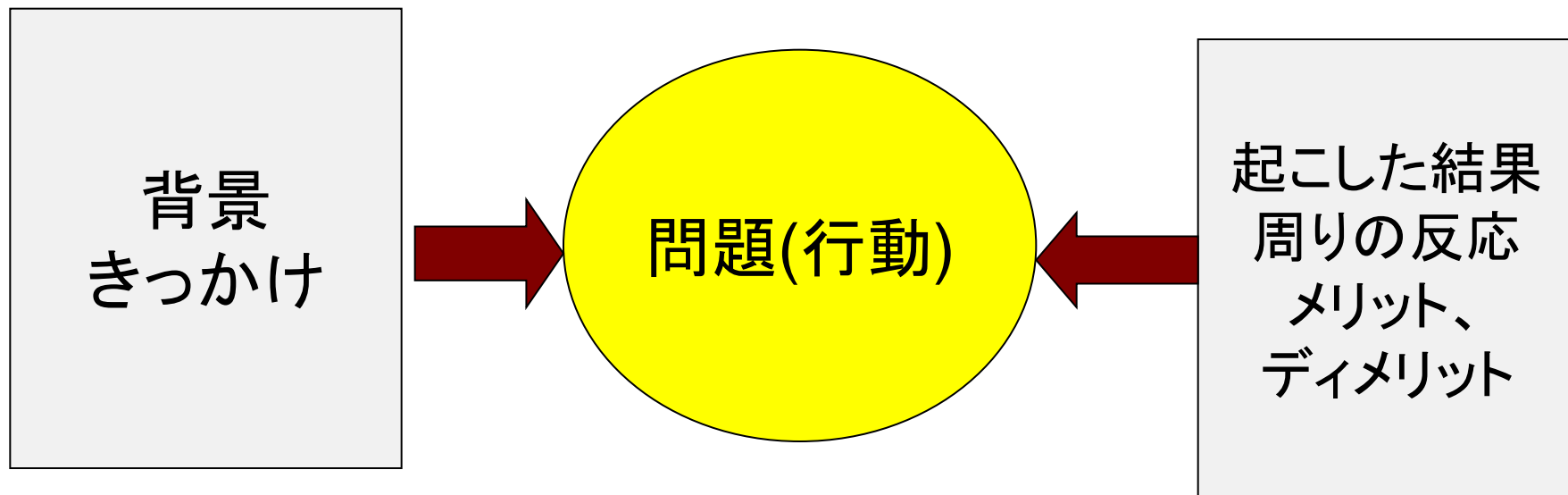
# 共通→段階的な対応

	全員対象	段階的な対応
学習	<u>UDL</u> (学習のユニバーサルデザイン)	小集団による補習、個別学習指導 実態把握→特性にあった支援
対人関係	<u>学級作り</u> CWSST <u>ストレスマネジメント</u>	SST、カウンセリング いじめへの個別指導 通級指導教室
生徒指導	UP(ユニバーサルプログラム)	小集団指導(自己解決法) 個別指導(機能的アセスメントと行動支援), 保護者連携

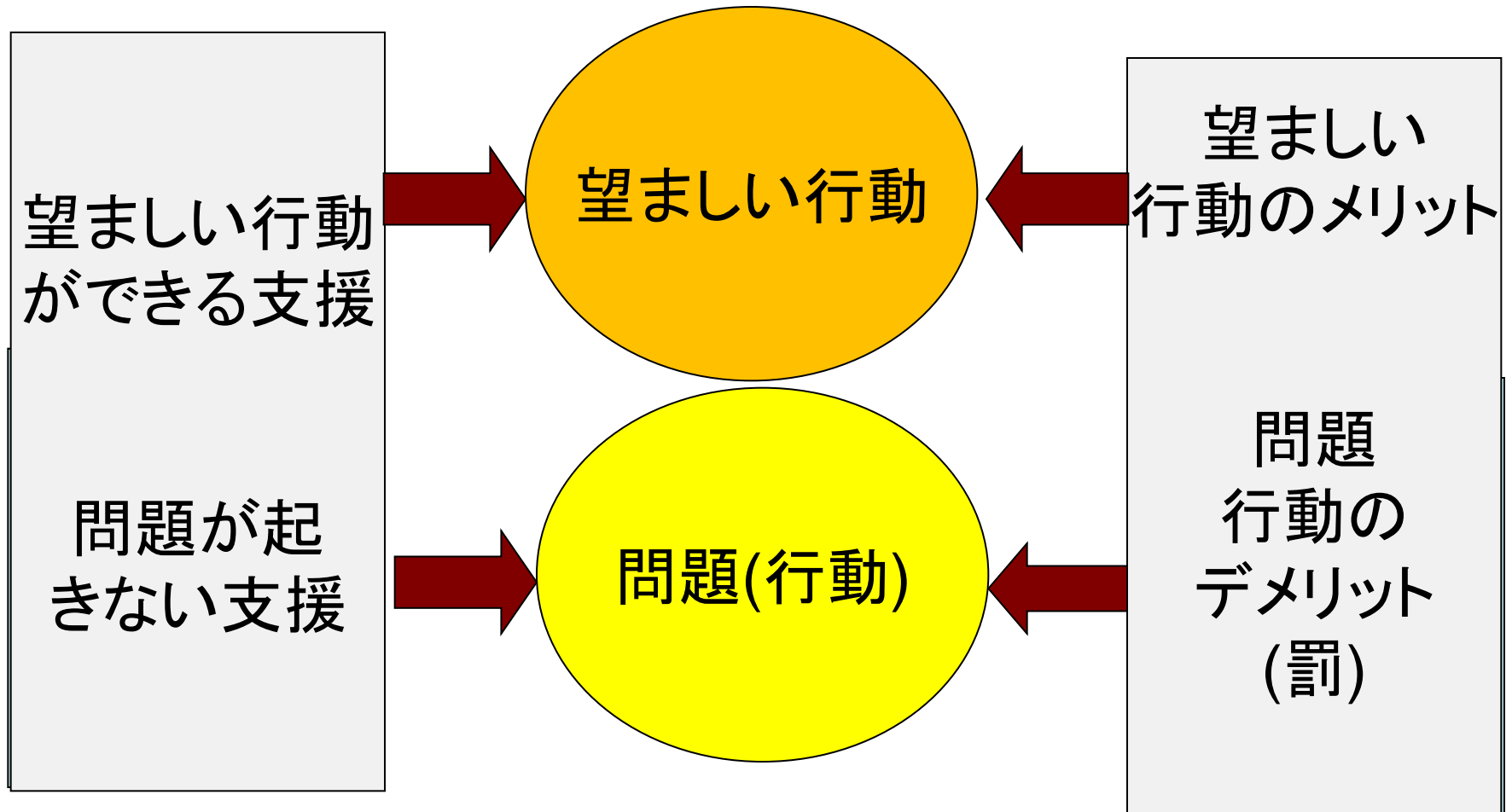
# 段階的な対応：個別指導の 基本的な考え方

いじめと不登校

# 問題のとらえ方の基本

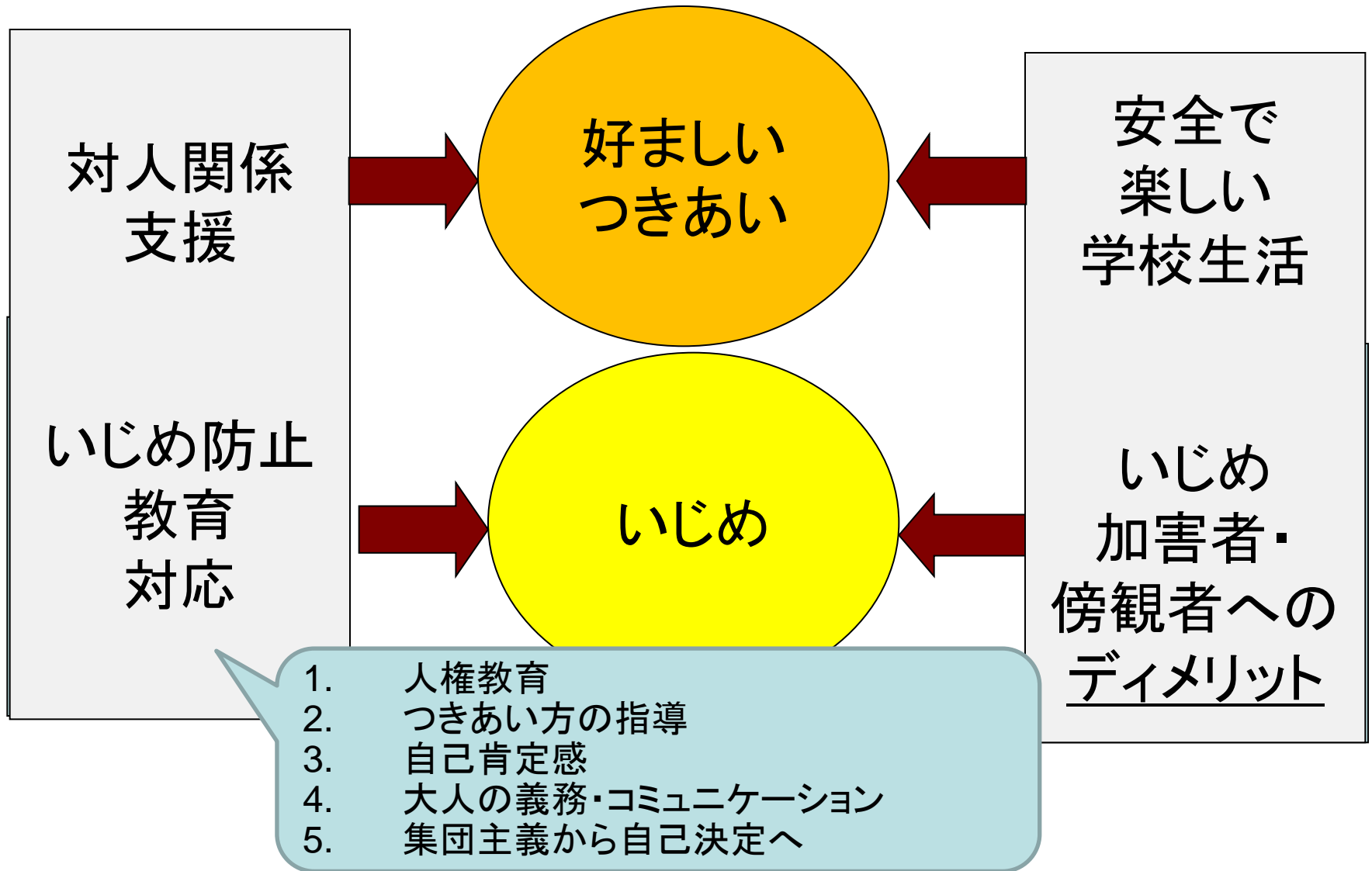


# 問題への対応



この理論で「いじめ」を考えると...

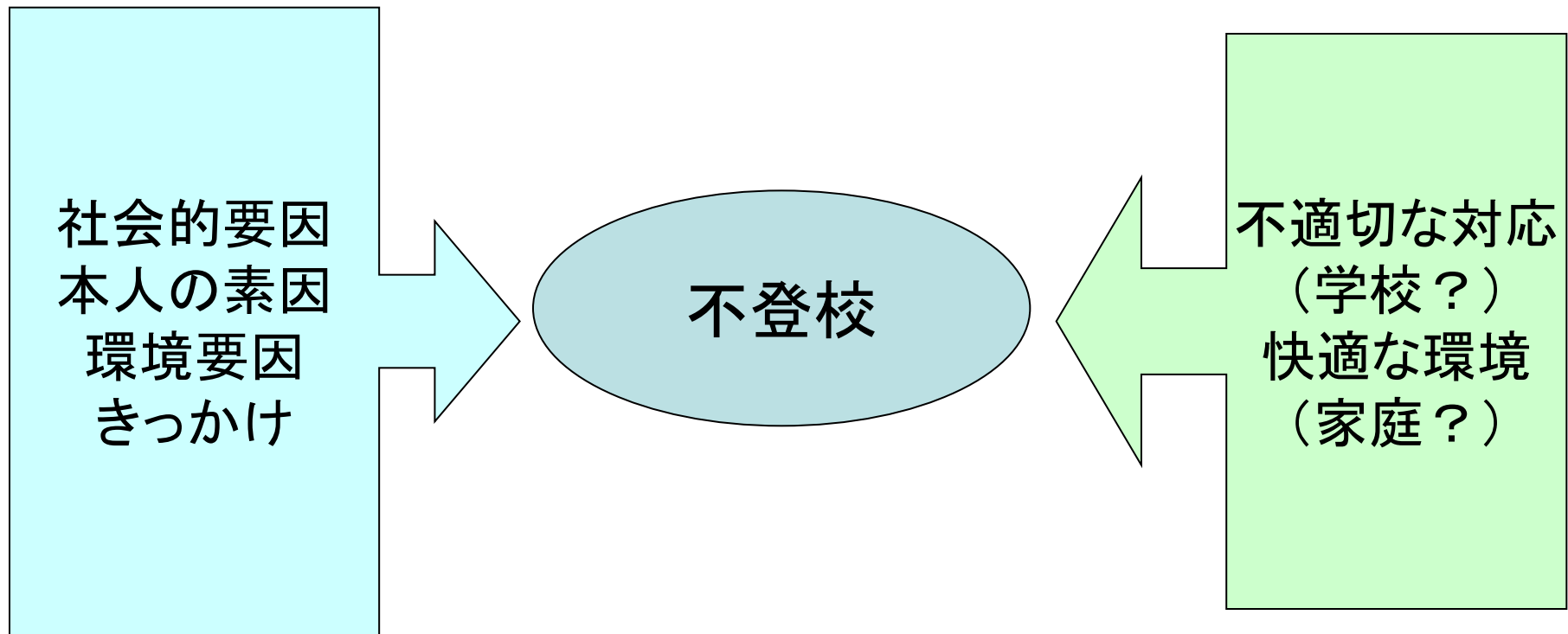
# いじめへの対応



# 私見

- 子ども、保護者への徹底した説明責任
  - いじめの定義、学校のルール・対応(姿勢)
- 対応システムの構築
  - いじめられたときの学校の対応(被害者中心の対応)
  - 賞罰の導入を(特に、罰則規定を明確に)
- 予防的対応
  - SST(嫌いな人とのつきあい方など)、自己評価法、子どもとのコミュニケーション

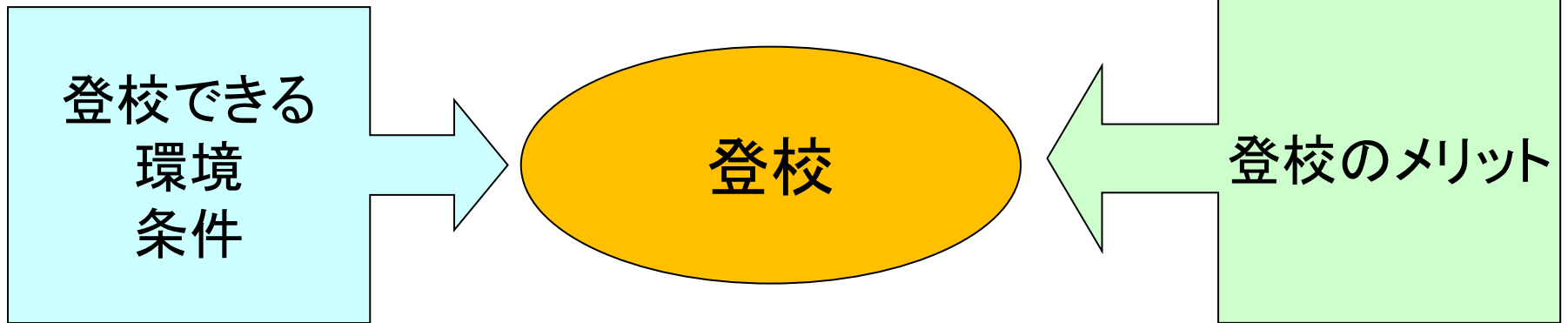
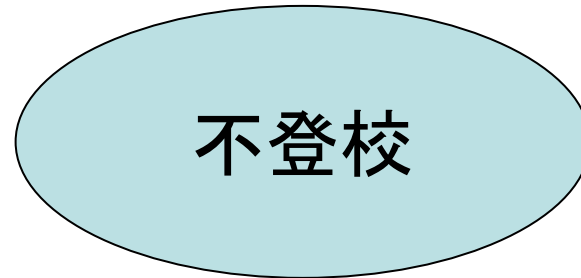
# 不登校の分析



不登校に導いた要因、不登校を維持している要因



# 不登校の対応



本人が受け入れる登校を促す条件と  
登校したことによる(本人への)メリット

# 私見

- 不登校などの問題は包括的なアプローチを

ひとりで抱え込まない  
複数のメンバーがチームで対応。指導モデルに従う

- 目先の問題より将来の目標

現状の認識と解決への意欲

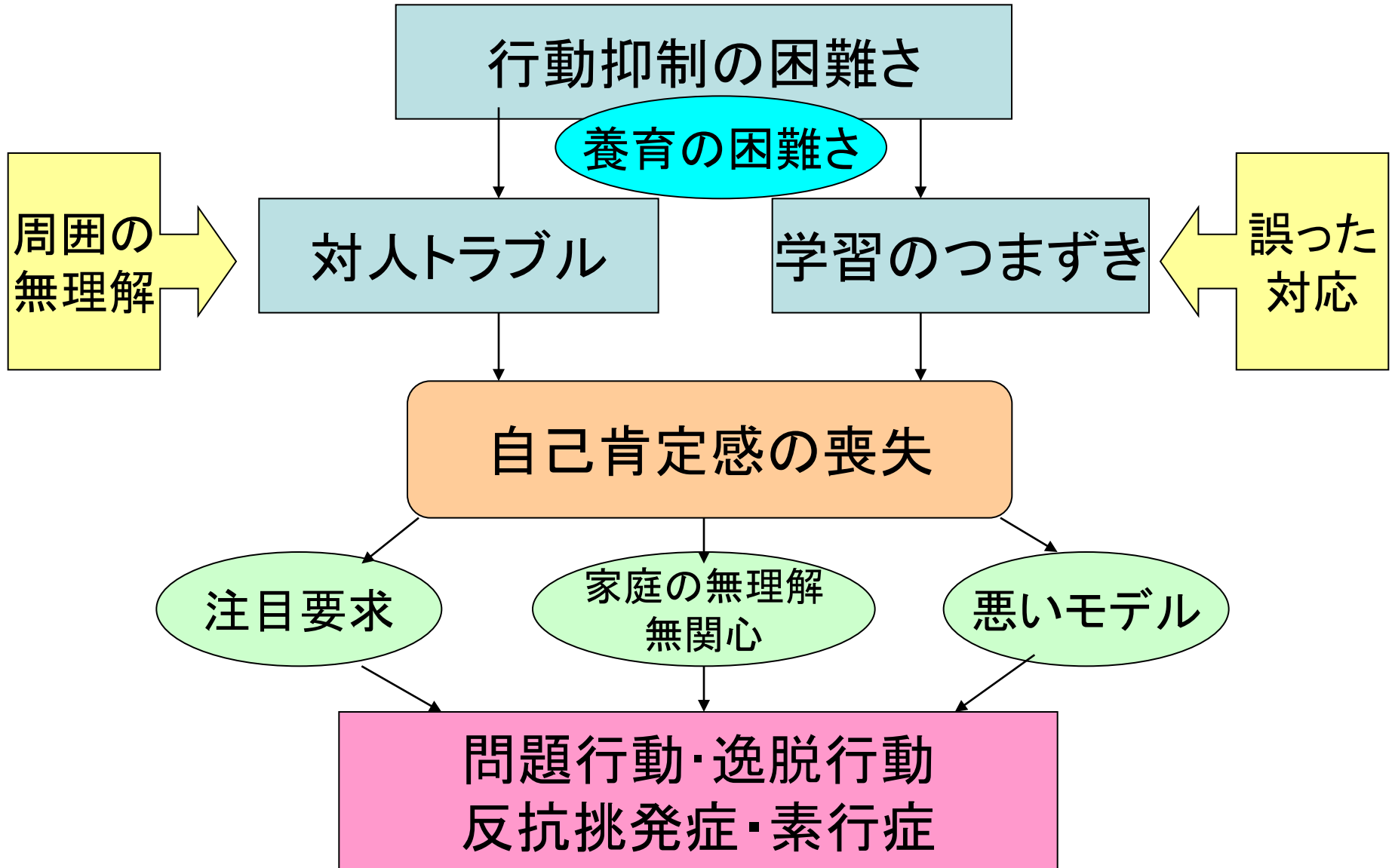
- 登校できるための基本的な対応

- 自己肯定感を育てる
- 学習支援、対人関係支援など
- 学校で得られるメリットを明確に、確実に

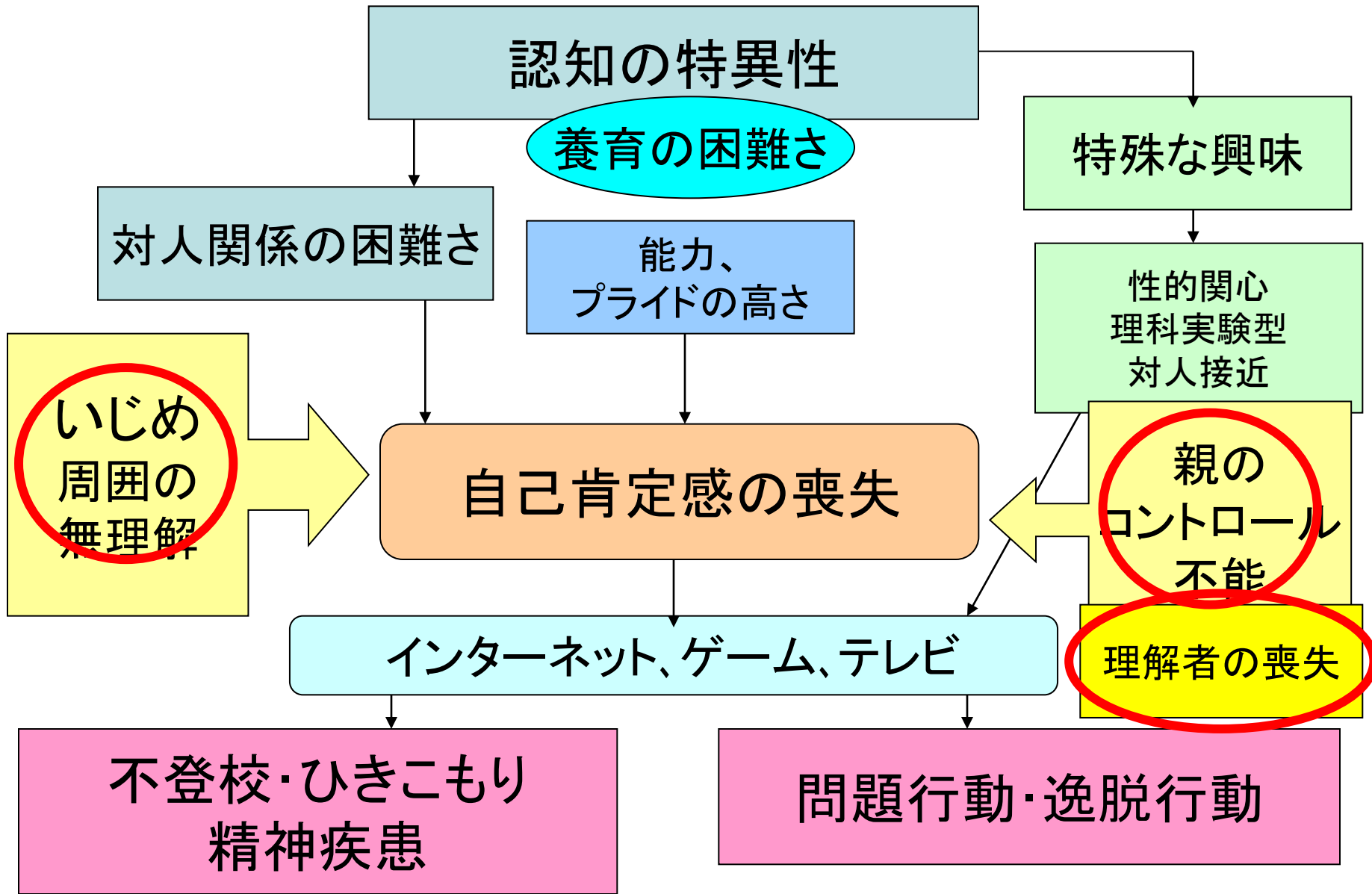
# 3. 発達障害特性への対応

## ADHDとASD

# ADHDと二次障害



# ASDと二次的な問題



# ADHDのウリは？

- 創造性の高さ

芸術活動、ユニークな意見、発想力の豊かさを評価する

- 人助けが好き、行動力がある

人の役に立つことで自己肯定感を育てる

- 変化に敏感

緊急時に思わぬ力を発揮することも

- 意外にも・・・

おっとりしている、好きなことに抜群の集中、正義感が強い

# ADHDに求められること

- 自己理解

行動抑制の弱さとさまざまな困難、自分のウリ

- 自己管理

行動抑制の仕方を学ぶ、実施する、振り返る

- 自己解決

解決の仕方を教えてもらい、自分で考え解決する

- 自己主張

気持ちを理解し、望ましい態度・かかわり方を学ぶ

# ASDのウリは？

- 正義感が強い、まじめ

主張の正当性を評価し、対応の仕方を教える

- 論理的思考、理数系に強さを発揮

特性にあった進路、活動を勧める

- 記憶力が抜群

学習や趣味に生かす。みんなの前で評価する

- パソコンなど、機器関係に強さを発揮

問題行動や困難差への対応を考える前に、  
発達障害のプラスの面を評価すること



# ASDに求められること

- 自己理解

他者理解の困難さ、自己管理の弱さ、自分のウリ

- 自己管理

課題の優先順位など、スケジュール管理。支援ツール

- 自己解決

解決の「形」を知り、形に従い問題を乗り越える

- 自己主張

SSTやカウンセリングで、人とのつきあい方を学ぶ

# 発達障害の対応: 要点

- 特性を知り、特性にあった指導と支援

検査や理論などの専門性を高める、専門機関と連携

- 特性にあったカリキュラム・個別指導が必要

自立活動、通級指導教室

- 個別の教育支援計画の作成と評価

- 困難さの克服より支援・ウリを生かすこと

多様性を認め、共生社会の実現を

- 親支援の必要性

# 4. 二次障害と学校の役割

二次障害は専門機関が中心

# 二次障害(精神疾患)

- 内在的疾患
  - 不安障害、抑鬱、神経症、RAD、PTSDなど
- 外在的疾患
  - ODD、CD、薬物使用
- 精神病性疾患
  - 統合失調症、双極性障害
- パーソナリティ障害
  - 境界性、強迫性、自己愛性など

斎藤(2014)

心理療法・薬物療法などの治療＋教育

# 虐待

## 反応性アタッチメント障害

# 虐待とは

- 身体的虐待

- 対象に身体的暴力を加える(乳児ゆさぶられっ子症候群を含む)

- 心理的虐待

- 対象に心理的暴力を加える

- 性的虐待

- 対象に性的暴力を加える

- ネグレクト(養育放棄・無視)

- 対象に必要な資源を提供しない

# 反応性アタッチメント(愛着)障害

虐待による

(RAD)

トラウマとストレス因子関連障害

- 生後五歳未満までに親やその代理となる人と愛着関係が持てず、人格形成の基盤において適切な人間関係を作る能力の障害
- 二つの群
  - 抑制型：他者に対して無関心。ASDに類似
  - 脱抑制型：部分的な愛着関係の状態に取り残され、他者に対して無差別に薄い愛着を示す。ADHDに類似 (ADHDとの区別がむずかしい)

重度気分調整不全障害(DMDD)

朝はむっつり不機嫌。午後にハイテンションなどの気分変調。やがて怒りの爆発へ。  
RADと同じではないか？ (杉山他、2014)

# RADへの対応

- 疑わしきは児相に通報を

虐待は違法であり、止める義務がある

- 児相と連携して対応([参考: 児童発達支援センター](#))

学校が中心ではない。教育には限界がある

- 学校ができることを実施する

子どもができることを認め、自己肯定感を育てる

ADHDへの対応とは違った対応が必要です  
マイナスからのスタート。心のケア(信頼関係の構築)



# 虐待への根本的対応(私見)

- 学校教育
  - － 人権教育、自己決定支援、ストレスマネジメント
- 家族支援
  - － 親支援プログラム、経済的支援、就労支援
- 地域による支援
  - － 共同体の構築と機能化(イベントを含む)
- 制度
  - － 児童相談所機能の強化、子どもの保護と養育の場(施設、里親)、産後うつへの対応

# 親の精神疾患

# 外傷性(複雑性)発達障害 (岡田、2006)

- 母親の精神的な問題(うつ、双極性障害、適応障害、境界性パーソナリティ障害など)が、子どもの心や行動、発達に問題を起こす
  - 多動と学習上の問題、攻撃行動、反抗、いじめ、不登校、虚言、盗癖、非行、うつ、不安、依存症、性的逸脱
- 子どもの年齢が小さいほどその影響は大きく、後の人格形成に重大な影響を及ぼす

心理的虐待によるRADのようであるが、RADではない  
母親のメンタルヘルスへの支援の必要性(US)  
家族支援

# 病んでいる母親への支援

- 丸ごと受け止める

「子育てで悩んでいませんか？」

- よいところ探しをする

完璧主義→子どものよいところを見つけ、反応する

- 生活の秩序を保つ

子どもが安心して過ごせる環境

- 親の病気や事情を理解する

親の状態を解説し、安心と秩序を与える

# (続き)

- 本当の気持ちを大事にする

子どもの想いを感じ取れるように支援する

- 母親自身が社会とつながる

母親が元気になれば、子どもも元気になる

- 場合によっては距離をとる
- 親の呪縛を解き放つ

学校でできることは少ないかもしれない  
しかし、話し相手になるなど、できることはあるはず

# 境界性パーソナリティー障害

- 見捨てられることへの極端な不安、思い
- 対人関係が両極端で不安定
- めまぐるしく気分が変わる
- 怒りや感情のブレーキがきかない
- 自殺企画や自傷行為を繰り返す
- 自己を損なう行為に耽溺する
- 心に絶えず空虚感を抱く
- 自分が何であるかわからない

岡田(2009)

カウンセリングが効かない。深入りせず専門機関へ

# パーソナリティ障害を支える(一部)

- 同じスタンスで向かい続ける

同じペース・距離を保ち、関心を注ぎ続ける

- 本人の主体性を重視する

自己決定、自己責任が基本

- 目的と枠組みを明確にする

方法にこだわるのではなく、目的を追求すること

- 穏やかで冷静な態度をとる

過剰反応しない(「そういう言い方はしない方がいい」)

ルールをきめ、ルールに従ってのみかかわってゆく

# 非行



# 反抗挑発症(ODD)

Oppositional defiant disorder

- 症状

- 家庭での言いつけに従わないことがあった
- 学校での言いつけに従わないことがあった
- 非常にひねくれやすかったことがあった
- かんしゃくを起こすことがあった

主たる理由もなく、ひねくれやすく、反抗的な態度  
6ヶ月以上継続している

# 素行症 (CD)

Conduct Disorder

- 動物や人を傷つける
- ものや建物を破壊する
- 嘘をつく
- 社会のルールに従わない
- 罪の意識を感じない

CD = 非行

学校や家庭だけでは対応できない  
専門機関と警察の介入を

# 少年犯罪の実態

資料  
白書22頁

- 少年刑法犯検挙数：**101,098**人（平成24年）
  - 減少傾向(?)
  - 窃盗、遺失物等横領が多い

粗暴犯、風俗犯の増加  
他は減少

性犯罪被害、出会い系サイト  
連れ去り被害、ひったくり  
薬物乱用、「いじめ」

# 少年非行の原因

- 少年自身の問題

規範意識の欠如、自己中心性  
自己主張・表現の未熟さ  
自己肯定感の低さ

- 家庭の問題

親の役割放棄  
親の規範意識の欠如

- 学校の問題

学校不適應(いじめ、不登校など)  
学力の問題

- 社会の問題

貧困、経済的格差  
ネット社会、ICTの悪用  
他人の子どもに無関心(地域)

発達障害



犯罪

# まとめ

- 発達障害の特性が犯罪につながる可能性は否定できないが、健常者より低い
  - 認知の特異性、自己決定の弱さ
- 虐待や養育環境が予後を決定づける
- ADHD症状の頻度の高さの意味
  - 二次障害としてのADHD症状？
- 学校不適応はハイリスク
  - 学力の重要性が高まる

発達障害と非行を結びつけるのではなく、  
非行につながらない対応や支援をすることこそ重要

他にも

養育姿勢

自己肯定感

貧困

問題行動への包括的対応

# 親の態度と養育

統制

権威主義

もっとも良い  
子育ての姿勢

無視

注目

虐待  
(ネグレクト)  
犯罪率が高い

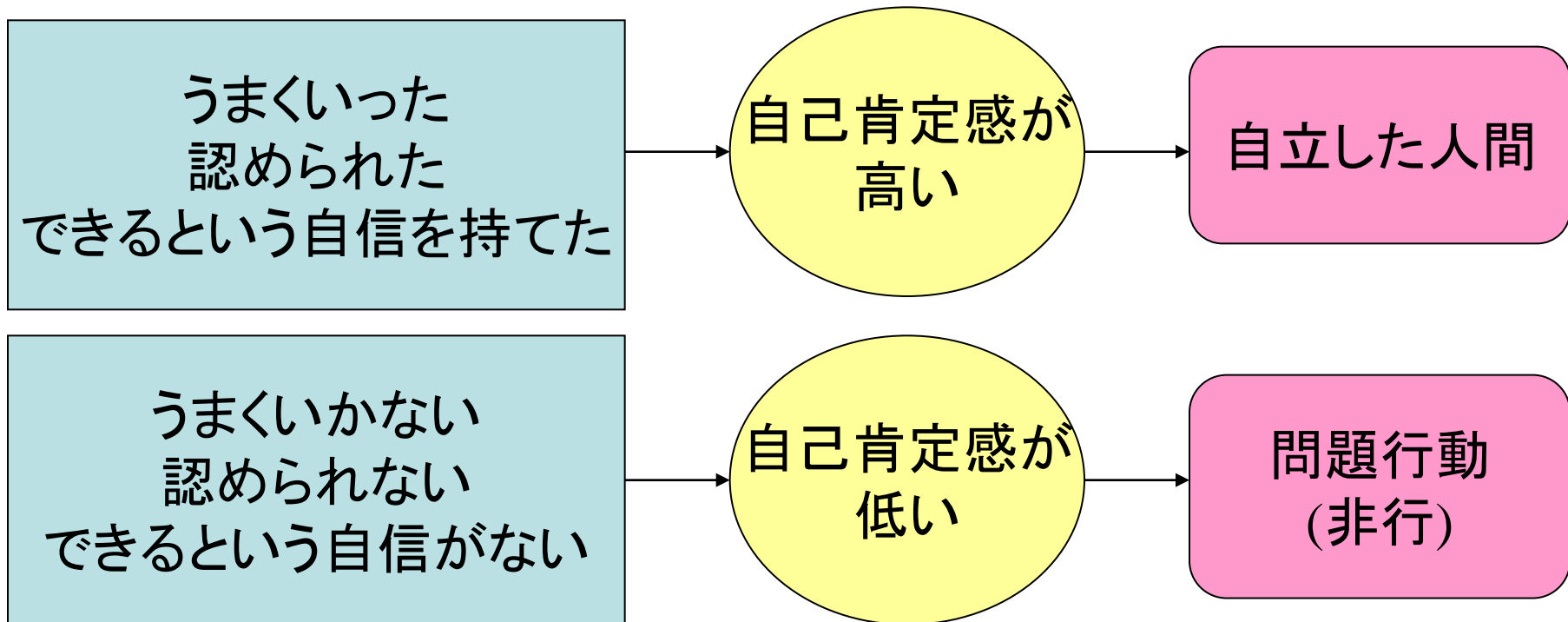
甘やかし

放任



# 自己肯定感とは

- 自分を認め、自分に自信を持ち、生きる意欲を持つこと



# 貧困の問題と対応 阿部(2014)

- 貧困率

[参考:子どもの貧困対策法](#)

- 貧困の影響

- 親の心理的QOL(-)→養育の質の低下↓

- 教育的文化的投資(-)→ **学力(-)・問題行動**

- 考えられる対応(学校)

貧困と犯罪との関係

- 個別学習支援、特別学級・補習・放課後支援

- カウンセリング、メンタープログラム

- 期待される成果→ **初期対応ほどコスト(-)**

段階3: 個別学習・自己管理指導・SST  
保護者連携など  
問題行動継続児童

説明責任  
定期的評価と情報公開

校長のリーダーシップ  
ビジョンの共有

段階2: タイムアウト・カウンセリングなど  
問題行動継続児童生徒

専門機関・地域・保護者連携

客観的記録と評価に基づく指導

段階1: ユニバーサルプログラム  
ルール遵守を評価・自己評価・ポイント制など  
学年全員

全校体制による包括的な取組(SWPBS)

# 全校体制による包括的な取組

- 実施体制の構築
- ルールと対応手続き、実施計画の作成
- 生徒、保護者への説明責任
- 行動理論による行動管理の徹底
- 特別な場での対応: カウンセリング、SST、学習支援
- 定期的評価と情報公開
- 校長のリーダーシップと教職員によるビジョンの共有化

# 二次障害・まとめ

- 二次障害には歴史あり
  - 子どもの事情、親のかかわり、環境要因など
- 包括的視点の大切さ
  - 障害特性、発達段階、家庭環境など
- 原因追及よりこれからを考える
  - 将来への見通しを示し支援を約束
- 専門機関との連携は、言うまでもない

学校の役割は何かを認識し、専門介入と一線を画す

# 長澤研究室



<http://www.ed.niigata-u.ac.jp/~nagasawa/>

メールマガジン、特別支援教育・発達障害の情報、資料